

# 「英語で教室から世界とつながる」プラットフォーム事業

“Opening a New World from the Classroom” Project, Hiroshima



## Gongju Girls' Middle School



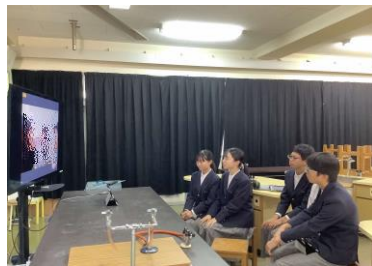
## 呉市立安浦中学校

### 交流の概要

学 年：第3学年

単元名：Stage Activity1 Discover Japan  
(NEW HORIZON English Course 3)

ねらい：相手の発話に応じて、自分の考えや気持ちを表現するなどし、会話を続けることができる。



互いに興味・関心があることが共通していたこともあり、フリートークでは、やり取りが活発に行われ、沢山の笑顔が見られた。

### 大切にしたこと

- ・各クラス1回のみでの交流であったため、交流時間をしっかり取れるように全体会は短時間で実施した。
- ・1回目の交流の反省（広島や呉の紹介などで時間がかかり、フリートークの時間の確保があまりできなかった）を活かし、次の学級からは自己紹介を実施し、その後は、互いの好きなものなどについてやり取りするフリートークの時間を確保した。
- ・話した内容に対してどのような質問がされるかを想定したり、それに対する答えを考えたり、会話を継続・発展することを意識させた。

活動内容：

#### ①挨拶（全体）

両校の英語担当教員が簡単な挨拶を行い、本時の流れについて確認をした後、グループミーティングへ移動した。

#### ②自己紹介、フリートーク（グループ）

両校の生徒を5グループ（両校とも各グループ3～4人）に分け、主に各自の好きなものなどについて互いに紹介した。第1回目の交流では、自分自身に関する以外にも、広島県や呉市の観光地や食べ物について交流した。自己紹介や各自の好きなものなどについて話す中で、互いのことについて「もっと知りたい」という気持ちから、やり取りが活発となった。

第2回目以降に交流した学級は、自己紹介を実施した後のフリートークでは、韓国で流行っている日本のポップカルチャー（アニメ、漫画、ゲーム、アイドル）や互いの学校、食文化など自分たちの興味・関心があることについてやり取りをした。

#### ③振り返り（全体）

両校の英語担当教員が活動を振り返り、フィードバックを行った。

«交流方法：Google Meet»

### 交流を終えて

#### 生徒の声

- ・あっという間に交流が終わり、言語の壁があっても通じ合えた気がしてとても楽しかった。
- ・通じないこともあったけれど、身振り手振りや写真などで補うと、自分たちの言いたいことを分かってもらったり、相手が言っていることの大体の部分が分かった。
- ・単語をたくさん知っていると相手の言っている意味が何となく分かる。
- ・交流をやる前までは「ちゃんと話せるかな」「伝わるかな」という不安もあったけれど、いざ交流をしてみるととても楽しくて、班の人の手助けや韓国の生徒の優しさを感じながら、今まで知らなかった違う世界を知ることができた。

#### 先生の声

- ・発音の僅かな差異による誤解（sportをspotと聞き取られる）や、映画の英語タイトルが分からず、会話が滞るなど、リアルなコミュニケーションの場で障壁を経験したことは、ジェスチャーを用いたり、他の表現で言い換えたりするなどして自分の伝えたいことを伝えようと試行錯誤する実践的なコミュニケーション能力を養う貴重な機会となった。
- ・「伝わった」という成功体験と「もっと伝えたい」という思いにより、今後の主体的に学習に取り組む意欲を支える大きな原動力になると思った。